

グリーンニュース 第41号

発行年月日 平成 21年 12月 22日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・



<氷結した三段の滝>

南牧村にある三段の滝は冬期には氷結し、アイスクライミングを楽しむ人が訪れます。

2008年冬は寒かったので見事に凍結しましたが、去年は不十分でした。

温暖化が問題となっていますが今年はどうでしょうか？

NHKニュースで冬になると時々袋田の滝（茨城県）が映りますが、

最近是完全に凍結するのが減って来たような気がします。

（広報副部長 田中 和夫）

インターネットで **環境アドバイザー** を検索！



「群馬県地球温暖化防止条例」を制定しました！

◎条例制定の背景

県ではこれまで、平成 18 年 3 月に策定した「第 2 次群馬県地球温暖化対策推進計画」（新コソコソプラン）に沿って、温室効果ガスの排出削減に向けた取組を行ってきました。

平成 20 年度から京都議定書における温室効果ガス削減目標の検証を行う第 1 約束期間が始まったことを契機に、県としてもその取組をさらに加速させることとし、県、事業者、県民の役割や取組を明らかにして県内の温室効果ガスの排出削減の実効を確保するため、「群馬県地球温暖化防止条例」を制定することとしました（平成 21 年 10 月 23 日公布）。

◎条例の概要

一定要件¹を満たした事業者には、次の 6 項目の義務が課されます。

温室効果ガス排出削減計画・排出量報告の提出とその公表²

自動車環境計画・実施報告の提出とその公表²

自動車通勤環境配慮計画・実施報告の提出とその公表²

新車の販売における燃費・CO₂ 排出量の表示と購入者への説明

家電製品販売における消費電力・省エネ性能の表示と購入者への説明

駐車場設置・管理者への利用者に対するアイドリングストップの周知

1：対象となる要件は、今後規則で定めます。

2：～ の計画は、提出義務がある事業者以外の事業者についても任意に提出することができ、自社の温暖化対策を県のホームページなどで公表することができるようにしております。

また、努力規定としては、

- ・事業活動における環境 G S 認定制度等、環境マネジメントシステムの導入
- ・エコドライブ、アイドリングストップの推進
- ・レジ袋の削減等容器包装の使用の合理化の促進
- ・公共交通機関・自転車の利用
- ・エネルギー消費量の少ない自動車や電気機器などの購入・使用
- ・太陽光発電などの再生可能エネルギーの利用推進
- ・森林の保全整備、県産木材の利用推進
- ・農産物の地産地消の推進

などを盛り込んでいます。環境アドバイザーの皆様におかれましても、条例の趣旨を御理解の上、積極的な温室効果ガス排出削減に向けた取組の実践や条例の周知にご協力くださいますようお願いいたします。

◎施行期日

この条例は、平成 22 年 4 月 1 日から施行します。

◎説明会の開催について

今後、県内各地で条例の説明会を実施します。具体的な日程・会場などは、今後、県ホームページなどでお知らせをいたします。

『レジ袋無料配付中止運動』中間報告

前回発行のグリーンニュースで、その目的・趣旨等を説明したスーパー等での『レジ袋の無料配付を中止する運動』は、現在群馬県当局が平成22年4月の一斉スタートを目指して、県内の食品スーパー等を対象に、その運動への働きかけを行っています。

そして県はその手順として、県内にある代表的なスーパー14社を対象に無料配付中止の協定を結ぶべく交渉を始めましたが、スーパー各社から「埼玉県川口市での失敗の事例があり、本当に一斉に実施が出来るのか心配だ」「現状どおり無料配付を続けるお店が一つでもあると、お客様はそちらに行ってしまう可能性が大きい」等不安の声が舞い上がりました。

そこで事業者側の真意を聞き、一方群馬県の消費者・環境団体の集まりである『グリーンコンシューマー群馬ネット』の考え方を伝えるため、“くらしの会の国峯会長と私の2名”で、群馬ネットの要望書持参の上、代表的なスーパー5社を訪問しました。その際、各社の発言はおおよそ次のようなものでした。

- 1、群馬県の方針に対し、決して反対ではない。協力する。
- 2、ただし、一斉に実施する環境を作って欲しい。
- 3、群馬県民多くの皆さんの理解・協力・盛り上がりが欲しい。
・消費者から、スーパー側が苦情を言われてしまう可能性が大・
- 4、出来る限り、各種団体の方が店頭啓発等で、実施店舗のバックアップをして欲しい。・・・店員特にレジ係にとって大変な励みになる・・・
- 5、ごみ袋の県内統一が出来ないか。・・・市町村毎で大きく違い即刻は無理・
- 6、将来的には、ドラッグストア・コンビニ等にも枠を広げて欲しい。

等々、貴重なご意見を伺いましたので、県にはお伝えしました。

今後の予定として、12月中には、全市町村も参加の第4回目の『レジ袋無料配付中止の協議会』が開催され、具体的な方策・日程等が明示されますので、年明けからは具体的に推進・啓発等が動き出します。その際にはアドバイザー皆様のご協力をいただきたく、よろしくお願い致します。

レジ袋無料配付中止の先進県状況

20年度から実施3県 = 富山県・山梨県・沖縄県

21年度から実施8県 = 和歌山県・青森県・山口県・大分県・石川県
福島県・岐阜県・茨城県

21年度実施協議中 = 埼玉県・栃木県 群馬は12番目の県となります。

尚、実施県のデータでは、マイバッグの持参率は、90%程度にアップするとのこと。

(連絡協議会 代表 鈴木 克彬)



体験を通して最近感じたこと

若い頃、法師温泉から赤沢林道に向かって秋のハイキングを楽しむつもりで、歩きだして間もなく友人が突然「キャー」と大声を上げた、何かかと思ったら「ヒル、ヒル」と叫んだ！

そんな苦い経験をしたが、地元の人達の話ではこの周りは昔から、かなりいるんですよと教えられたが以前のことでは忘れかけていた。

3年前から「赤谷プロジェクト」の関係で「赤谷の森」には度々訪れる機会があり今年に入ってから履物は登山靴でなく長靴を用意して下さいとの連絡があり、理由を聞くと「山ヒル」が最近移動して来ているので、とのこと。同行された「日本自然保護協会」の方の話では近年各地で問題になっているので注意が必要ですのでとのことであったが、仲間が数人襲われて騒ぎになった。

また、昨年10月17日の高山村共有林の作業（下草かり、弦切り）が終わり帰り際に地元役員の方からバーベキューに誘われ御馳走になった。その肉は人里近くに現れ農作物などを荒し、やむなく捕獲した熊「メス68kg」と猪の肉でした。

「日本自然保護協会」に聞くと色々な原因があるが、山の環境が変わり、動物達にとっての好物（木の実等）が減ると、だんだん里に下りて来ます。その際それらの身体に付いてる「山ヒル」も里におりてきます。

これらのことから森林は私達にとっても、身近な存在であることを改めて知らされた思いです。

（自然環境部会長 宮崎 亮二）

第11回ぐんま環境&森林フェスティバル

ぐんま環境&森林フェスティバル第11回がぐんまこどもの国(太田市長手町)を会場に10月25日、午前9時30分から午後3時まで開催されました。



環境アドバイザー連絡協議会も参加して「レジ袋の無料配布中止を推進します！」のパンフレットを配るなど啓発活動を行いました。来場者は約5500人に達しました。

ソーラーカーの試乗も行われ、来賓として出席されていた大澤知事が運転されたのが印象に残りました。

（太田地区世話役 天笠 正義）

レジ袋無料配布廃止に伴う協力について

ごみ部会は、毎月一度会議を開催しております。

今年度のごみ部会は、レジ袋無料配布廃止に伴う協力について、その推進協議会の進捗報告をもとに、どのような対応をすべきかを中心に検討しております。

レジ袋の無料配布廃止は、県民のライフスタイルを変え、結果としてのCO₂削減に向けての活動と思いますが、この課題は、単に目先の利害のみで実施する・しないと言うレベルで判断するべきものではありません(現在は、多くの事業者がこのレベルで逡巡しているような印象があり残念です)。

行政・事業者・市民が共通の認識と目標を持って、一体となって取り組まなければ達成できないことであり、我々環境アドバイザーとしての役割をしっかりと認識して推進のための協力体制を図るべく協議しています。

このようなことをメインの議題として進めて参りましたが、ゴミに関する県民の意識調査結果などの実態等を、資料をもとに確認することなども行って参りました。

また部会の今年度の計画は、ごみ処理施設や企業が行っているゴミ分別の実態の見学会や、ごみ削減に向けての取り組み事例発表会などを計画しています。

(ごみ部会長 須永 徹)

バイオディーゼル車での世界一周

高崎の地球市民の日に車の後部で燃料が製造できる、高崎ナンバーのバイオディーゼル車の展示があり参加しました。

現在よく行われているバイオディーゼル燃料製造では多量の水で洗浄したり、グリセリンが出てしまいますが、この車の製造ではイオン交換樹脂を用いることで水の洗浄は行いません。またグリセリンはバクテリアを土とともに積み込んで分解する機能まで備えつけられていました。移動が多いときは現地のBDF製造者の買い取りとの併用だったそうです。私しも廃食用油を入れてみました。



山田さんと草場

その日の夕方、高崎市総合福祉センターでドライバーでフォトジャーナリストの山田周生さんから、2007年12月に東京を出発し、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカの一部、ヨーロッパ、モスクワ、カザフスタン、を通りシベリア鉄道沿いの道が続いているか、どうかわからないところを走り、ウラジオストクから日本の富山に2008年12月に戻ってきたお話を聞きました。

バイオディーゼル燃料の実験、世界のバイオディーゼル利用状況、廃食用油をもらいながらの人との交流が旅の目的だったそうです。

世界のバイオディーゼル燃料、自然エネルギー活用の実態は日本のレベルをはるかに超えていることが大変よくわかりました。

なぜ高崎ナンバーなんですか?と聞いてみました。東京、埼玉、神奈川ではディーゼル車登録ができないこと。東吾妻町でドラゴンファームをしている知人がいたことから高崎ナンバーになったそうです。

(エネルギー部会 草場 史子)

「NPOを巡る たかさき エコウォーク 2009」 報告

—群馬県ネットワークづくり応援補助事業—

10月20日(快晴)中央公民館よりA・B・二班に別れ出発。私はB班20数名を担当しました。

*最初に「NPO法人工房あかね」のある(聖オーガスチン教会)を訪ねました。当教会は昭和4年建造、平成20年3月7日国の有形文化財登録(建造物)となり、高崎では最も古い教会でした。(以前は聖光幼稚園園舎にも利用されていた)そこではエイブルアート、ワンポイント風呂敷作りを各自が自由に得意な絵や字を書かれ皆さん満足されていました。

ルートの通り、本町三丁目は周辺を見渡せばむかし路面電車が走っていた事が不思議であり、又電柱が、地下に敷設したため町並みが、すっきりし景観が良くなりました。

高崎田町では高崎信用金庫本店(大正三年七月一日創立)があり、またこの地区では料理屋も多くS20年以後は大繁盛45年頃までは大変賑やかで50年以後から徐々に衰退してきました。

*つぎに「NPO法人手をさしのべて」(子育てサロン)へ、設立目的は不登校、引きこもりなどを支援または予防するためと思ひ設立したそうです。0歳児から預かり毎日の食事は地産地消ランチで野菜30種を使用しており今回も皆で美味しく頂き、マイ箸袋付お土産まで頂きました。連雀町までの途中は駐車場とシャッター街が多く、人通りも少なく寂しい思いがした次第です。この辺で最も古い老舗の日英堂(パン屋)は日本と英国が、日英同盟を結んだ時に出来た店舗である為日英堂と名付けたそうです。

*「NPO法人たかさきコミュニティシネマ」の(11月10日に未来の食卓を鑑賞した)あら町交差点に来て、人通りもあり。左は高崎駅右は市庁舎があり、街らしい雰囲気になりました。



(平成21年11月10日)

*「NPO法人 わんだふる」(高齢者サロン)で一番感心したのは防犯マップを自作し、町内会の防犯に大いに役立っているそうです。同時に廃食油回収をしバイオディーゼル燃料に力を入れ町内会も協力し活発な活動をされていると思いました。高齢者は囲碁、将棋、手先を動かす自分の趣

味を生かしていました。また気楽に立ち寄れる場所として非常に良い事だと思ひ今後共、益々発展してほしいところです。

*最後に市役所でNPOへの応援事業や環境について、又現在の交通機関の、ぐるりんバスの運行範囲及びバス路線での経営状況の説明があり今後とも市民の協力が不可欠であると感じました。

(高崎地区会 岡本 正治)

イベントで発生するごみを分別、資源化

—安中市福祉ふれあいまつりにて—

去る9月20日(日)に、安中市、安中市社会福祉協議会、福祉ふれあいまつり実行委員会主催による「第9回福祉ふれあいまつり」が、安中市スポーツセンターで開催されました。このイベントは、地域の福祉活動の推進、社会福祉の啓発を目的として市内のボランティア団体が協力して毎年行っているもので、今年も約10,000人の市民の参加がありました。

会場では、バザーや模擬店などが行われるため、紙ごみやプラスチック容器ごみがたくさん排出されます。一昨年、伊勢崎地区で開催されたイベントごみに関する地域環境学習会に参加して、イベントで発生するごみの分別回収のノウハウを教えていただき、それをもとに、昨年のふれあいまつり実行委員会で、「ごみの分別・資源化によるイベントごみの削減」を提案し、実行しました。

来場者への分別指導と会場の環境美化巡視を板鼻グリーンネットと地元の高校生で担当。ダンボール、雑がみ、ペットボトル、エコキャップなど、12種類の分別行うボックスを設置して、来場者に分別を呼びかけ、前年比3割のごみの減量を行うことができました。

来年からは、ごみの発生抑制をはかるため、マイバッグ、マイ箸、マイボトル持参の呼びかけを行っていく予定です。模擬店でのリユース容器の使用の提案も検討しているところです。



今年の第9回福祉ふれあいまつりのごみ分別の様子

イベントは屋外の広場と体育館内で行われたが、ごみの分別場はこの1箇所のみ。

来場者にも分別に協力してもらい、混乱なく実施することができた。

イベントごみの分別・資源化の取組を
広げよう

各地域で、イベント主催者にごみの分別・資源化を提案して、イベントごみの減量を進めましょう。また、分別・資源化を行っているところがあったら、その事例を紹介していただき、ノウハウの蓄積、取組みの拡大を図りましょう。

(環境アドバイザー安中地区連絡会 板鼻グリーンネット 吉澤 敏則)

たかさき地球市民の日

今年で9回目の「たかさき地球市民の日」が10月25日（日曜日）に城址公園・庁舎前広場・市役所1階ロビーを利用して開催されました。前日から曇り空で肌寒く、雨が心配された日でした。環境アドバイザー高崎地区会は13名、安中地区2名の会員が参加し、エコムーブ号を利用して、温暖化（エネルギー）太陽光&風力発電、排気ガス、水、ごみ、などを観客に見せながら、説明やパンフレットを配布し、温暖化防止とエネルギーの大切さを訴えました。同一テント内には、高崎くらしの会や高崎友の会の方々も出展されていました。その他NPOぐんま、や多数の企業も出展していました。

他に芋煮、カレー、お弁当、ジュースを売る店も出て賑やかな会場でした。また、当日は第20回高崎マーチングフェスティバルで小、中、高、自衛隊、警察隊、や千葉、横浜などからの音楽隊も参加して、シンフォニロードをパレード行進し沢山の見学者で一杯でした。

（高崎地区 秋山 一郎）



（水の汚れの説明）



（市役所前を通過中の小学生）

レジ袋無料配布中止の先進県の状況

	県	実施開始日	店舗数	事業者数
1	富山県	H20.4.1	422	44
2	山梨県	H20.6.30	465	37
3	沖縄県	H20.10.1	252	11
4	和歌山県	H21.1.23	192	31
5	青森県	H21.2.2	231	24
6	山口県	H21.4.1	404	68
7	大分県	H21.6.1	223	26
8	石川県	H21.6.1	832	40
9	福島県	H21.6.1	166	14
10	岐阜県	H21.6.1		（不明）
11	茨城県	H21.7.1	274	27

（参考）

埼玉、栃木県 = 協議中

環境アドバイザーは、レジ袋無料化配布中止の環境づくりにお手伝い、協力をしましょう。